

後期高齢者広域連合に要請を行いました。**“保険料を引き下げよ” “後期高齢者医療制度は廃止せよ” 173 団体署名を提出**

8月5日(木)、県社保協は後期高齢者医療広域連合に対して要請を行いました。南本代表幹事ほか4人が参加。広域連合側は、青山事務局長はじめ4人が出席しました。

冒頭、南本代表幹事から要請書を読み上げて提出、団体署名173団体分を手渡しました。

広域連合側から要請事項に対する回答が行われました。保険料軽減特例については「被扶養者の軽減制度を維持するよう全国協議会を通じて7月4日に厚労大臣に要請した。」と回答。保険料を引き下げることに対しては「準備基金(余剰金)を活用して、保険料適正化に努める」と回答。75歳以上の医療費窓口負担2割化の中止に対しては「情報提供、丁寧な説明を行うよう全国協議会を通じて厚労大臣に要望している。」と回答しました。

来年度の保険料改定については、7月に開催された広域連合議会でも議論になり、県社保協も請願を行いました。この日の要請では、低所得者ほど負担が重い均等割を引き下げろべきだと訴えました。

人間ドッグを受けたら、国保の時より後期医療になったら窓口で払う金額が増えたという話しが出されました。後期になったら人間ドッグは受けたらあかんのかと感じたと述べ、改善を求めました。聴力検査を入れることを要望する声が出されました。広域連合は追加費用が発生し保険料にはねかえること、聴力検査器を備えていない医療機関があることなどをあげました。国に対しては健診項目を増やすよう要望しているとも述べました。

資格証明書は発行したことがないと回答。差し押さえは、令和元年度実績は、87件、626万356円(前の年、105件、730万1千円)。短期保険証の発行数は、5月1日現在で206件です。(昨年6月1日現在で206件)

★「年金下げられたら生活やっていけない」年金天引き日宣伝活動を実施

県社保協は、8月10日、定例の年金天引き日宣伝活動を行いました。炎天下のもと、15人が参加し、署名を訴えました。「年金下げられたら生活やっていけない」と筆をとってくれました。14人の方々が暑い中にもかかわらず足をとめて署名してくれました。

◎不服審査請求 8月11日現在

後期高齢者23件、介護保険66件、国保5件(和歌山市4橋本市1)～後期高齢者と介護保険は昨年実績を上回りました。橋本市では国保に対する不服審査請求は市政史上はじめてのことだったとのこと。行政側も戸惑っていたとのこと。提出した方は“風穴を開けた”と。

